

平成24年2月10日

中央社会保険医療協議会での平成24年度診療報酬改定答申を終えて

中央社会保険医療協議会

二号委員

安達 秀樹

嘉山 孝正

鈴木 邦彦

西澤 寛俊

万代 恭嗣

堀 憲郎

三浦 洋嗣

本日、中央社会保険医療協議会（中医協）から厚生労働大臣に対して、平成24年度診療報酬改定について答申を行いました。今回の改定は、10年振りのプラス改定となった前回改定に引き続くプラス改定となりましたが、そのネットの上げ幅はわずか+0.004%にとどまり、過去の度重なるマイナス改定等によって引き起こされてきた「医療崩壊」と呼ばれる深刻な事態を解決するには依然として不十分と言わざるを得ません。しかしながら、未曾有の大震災が発生し、社会経済情勢の厳しさが増す中でのプラス改定は、世界一の医療水準を堅持するという政府の姿勢が貫かれたという点で、評価できると考えます。

今回の診療報酬改定の議論において、我々二号委員は、国民に対する説明責任を果たしつつ、質の高い医療制度を実現するため、昨年7月13日の総会において「わが国の医療についての基本資料」を提出して説明を行うなど、エビデンスに基づいた議論を真摯に積み重ねることに注力してきました。

今回の改定では、限られた財源の中で、病院勤務医の著しい疲弊の軽減、救急・産科・小児・外科等の医療提供体制の立て直し、介護報酬との同時改定を踏まえた在宅医療の充実や医療と介護の連携強化、がん医療や認知症医療の充実といった事項を重点的に評価するものとなりました。そして、これらの改定事項は、今後の我が国の医療提供体制の質の向上に寄与する内容になったと考えます。ただし、今回の改定に当たって二号委員から議論を求めてきた再診料や入院基本料の引き上げ、看護職員の72時間要件の見直し、いわゆるドクターフィー導入の是非の検討等について、正式な議題として取り上げられることなく審議が進められたことは極めて遺憾であります。また、複数科受診の再診料の評価では一定の前進を見たものの、我々の主張が十分に認められたとは言えません。したがって、これらの点で次回改定に向けての課題が残されたと考えています。

そもそも、国民から医療費の負担に対する納得を得るためには、エビデンスに基づいた診療報酬点数の設定が不可欠です。しかしながら、医療の屋台骨を成している初再診料や入院基本料等の基本診療料の設定根拠は不明確なままです。そこで、我々がかねてより、国民の納得を得ながら、あるべき医療提供のコストを適切に反映していくために、基本診療料のあり方の明確化と、その上でのコスト調査の実施とそれに基づく評価を提案してきました。更に、合理的な診療報酬体系を構築していくためには、「もの」と「技術」の評価の分離を促進するとともに、適切な医療技術（無形の技術を含む）の評価を重視していかなければなりません。また、低い給与水準にもかかわらず、過重労働を続けている大学病院をはじめとする病院勤務医の処遇改善を進めていくためには、いわゆるドクターフィーの導入についても議論していく必要があります。診療報酬体系のあり方に関わるこれらの根本的な問題について、中医協において本格的に議論を進めることが不可欠です。

したがって、我々は、国民と医療従事者が共に医療を支え合うという文化を醸成し発展させるためにも、来年度早々から、

1. 今後の医療のグランドデザインに基づく中長期的な視点からの議論
2. 基本診療料（特に初再診料と入院基本料）のあるべき姿の明確化とコスト調査に基づいた評価
3. 「もの」と「技術」の分離を原則とした診療報酬体系の構築
4. 技術評価の重視と技術評価プロセスの見直し
5. いわゆるドクターフィーの導入の是非も含め、病院勤務医等の負担軽減及び処遇改善に向けた更なる検討
6. 業務の量と質に応じた公正な診療報酬点数の設定の推進

といった観点を重視しながら、答申付帯意見で掲げた事項も含め、精力的に議論に取り組んでいく所存です。

国民のための良質な医療提供は、大学病院等の特定機能病院や大病院、地域の中小病院、一般診療所、歯科診療所、保険薬局等が一体となって支え合いながら実現されているものであり、これらのいずれかが崩壊しても医療は成り立ちません。したがって、我々は今後とも、国民の生命及び健康を守るため、診療報酬体系を医療現場のニーズが一層反映されたものとすべく、エビデンスに基づきながら、一体となって取り組んでいくことを改めて決意し、ここに宣言します。

最後に、厚生労働省事務局もまた例外なくその志を同じくし、昼夜を問わぬ事務業務に携われました。まずは、慰労の言葉を送ります。さらに、一号委員、公益委員、専門委員の方々についても、真剣に日本の医療を良くしようとの観点から御意見を寄せられたことに敬意を表します。そして、森田朗中医協会長には、長時間にわたる集中的な議論の中で、多角的な視座から数多くの意見を取り入れ、精力的にお取りまとめ頂いたことに感謝致します。

以上